

クッブ

1. 概要

バイキングたちが生み出したスウェーデン生まれのスポーツです。体力差は関係なし、誰もが楽しめる平坦な自然のフィールドなら雪原や海岸などでも気軽に楽しめる、エコロジカルなスロースポーツです。

2. 特徴

両チーム5個ずつのクッブ（角材）を自陣コートに並べて、先行後攻を決めます。先攻チームは6本のカストピンナ（丸棒）を投げて、相手コートのクッブを倒します。全部クッブを倒したなら、キングを倒せます。先にキングを倒したチームの勝ちです。

ただし、相手チームに倒されたクッブは、攻撃時に相手コートに投げ入れて、まずはそのクッブを倒さないと相手の元からあるクッブは倒せません。そのため、ゲーム展開はグッとおもしろくなります。

3. 用具



左から ・キング1個 ・カストピンナ（丸棒）6本 ・クッブ（角棒）10個 ・コート用杭4本

4. コート 5×8m（または4×6m）

5. 人数 6本のカストピンナを投げるので、1チーム2～3人位（2チームで対戦）

6. 競技方法

- (1) コートの4角にコーナーピンナを立てコートの範囲を特定します。
- (2) コートの中央にキングを配置します。
- (3) それぞれのベースライン（ショートサイド）に各5個のクッブを均等に置きます。これらをベースクッブと呼びます。
- (4) 先行、後攻を決めた後、先攻チームは自陣のベースラインの後方から6本のカストピンナを“1人1本ずつ順番に必ず下手投げで”投げて後攻チームのクッブを出来るだけ多く倒します。相手のクッブをすべて倒し、最初にキングを倒したチームの勝ちです。

7. ゲームの流れ

- ここではA チームを先攻、B チームを後攻とします。
- まずは、A チームがB チームのベースクップを2本倒しました。B チームは、倒されたクップをA チームのコートに自陣のベースラインの後方から投げます。(図1)
- 1回の投てきでA チームのフィールド内に留まらなかったクップはもう一度だけ投げることができます。
- 2回の投てきでフィールド内に留まらなかったクップは、A チームが自陣内であればどこでも好きなところに置くことができます。つまり、自分たちに有利な場所におけるわけです。ただし、キングからはクップの長さ分の間隔を空けなければなりません。
- A チームは、B チームより投げられたクップの両サイドの一方を選んで、そこを基点にしてクップを起こします。これらのクップをフィールドクップと呼びます。(図2)
- B チームは6本のキャストピンナを投げて、先ず始めにA チームのフィールドクップをすべて倒してから、ベースクップを倒さなければなりません。フィールドクップが立っている時にベースクップを倒しても、元に戻されます。
- B チームは、1本のフィールドクップしか倒せなかったとします。再びA チームの投げる番になり、A チームは1本のフィールドクップを投げ返します。
- すべてのフィールドクップを倒しきれなかった場合、次に投げるA チームは、残っているセンターラインに一番近いクップまで前進してキャストピンナを投げる事が出来ます。(図3)
- 以上を繰り返し、相手チームのすべてのクップを倒したチームが、初めてキングを倒す権利を得て、最終的に先にキングを倒したチームが勝者となります。
- キングを倒すための投てきは常にベースライン後方から行わなければなりません。
- 相手チームのすべてのクップを倒す前に誤ってキングを倒してしまったチームはその時点で負けとなります。

